

鬼だって、いろいろあるのに

副校長 山本 秀樹

先日は持久走記録会の応援のために、たくさんの方の保護者の皆様に新中川の河川敷にお集まりいただき、ありがとうございました。学校で子供たちの帰りを迎えると、戻ってきた子供たちの顔にはたくさんの方の満足感と達成感があふれていました。友達と競い合い、自分の限界に挑戦した子供たちはまた一回り成長したのだと実感しました。今回の大会では、PTA 役員や保護者の皆様に児童の安全確保のためにお手伝いをいただきました。おかげで無事に大会を終えることができました。重ねて感謝いたします。

さて、早いものでもう2月です。2月といえば立春。その前日が節分にあたり、今年は2日になります。節分はもともと中国の「追儺(ついな)」という鬼払いの儀式で、旧暦の立春が新年であったため、その前に邪気や煩惱を祓うのが目的です。そのため、豆まきが終わると、今年1年の厄除けを願って自分の年よりも1つ多く豆を食べ(年取り豆)ます。ただ、近年は豆をまく家庭も減り、どちらかというと恵方巻、という家も増えているようです。

ところで、この節分を舞台にした「おにたのぼうし」(あまんきみこ作)という作品をご存知でしょうか。昨年までは3年生の国語の教科書に掲載されていたので、4年生以上の保護者の皆様は宿題の音読で聞いたという方も多いと思います。

節分の日、黒鬼の子の「おにた」は、住んでいる家を豆まきで追い払われてしまいます。途方に暮れているその時、おにたは豆のにおいのしない家を見つけ、忍び込みます。そこでおにたが見たのは、病気の母親とその看病をしている、小さなやせた女の子でした。母親は女の子に向かって「おなかかすいたでしょう?」と問いかけます。すると女の子は「さっき、知らない男の子が、あったかい赤ご飯とうぐいす豆を持ってきてくれたの。」と答えます。でも本当は女の子はおなかをすかしていたのです。それを見抜いたおにたはどこからか赤ご飯とうぐいす豆を調達し、鬼であることを隠して女の子に届けます。女の子は喜び、今度は次のようにおにたに相談します。「鬼が来ると、お母さんの病気が悪くなるから豆まきがしたい。」おにたは思わず立ち上がり、「鬼だって、いろいろあるのに」と言うと、氷が溶けるように姿を消してしまいます。おにたがいた場所には麦わら帽子だけが残されており、その下には黒豆が残っていました。「さっきの子はきっと神様だわ」そう考えながら女の子は残された豆をまくのでした。

おにたは心優しい鬼です。しかし、鬼というだけで嫌われ、追い払われてしまいます。私たちの生活の中で実際に鬼に出会うことはありませんが、「〇〇だから△△」と決めつけてしまうことへの警鐘を鳴らしているようにも感じます。「男の子だから強いはず」「女の子だからかわいいものが好き」「ルールを破ったら悪い人」「私を叱る人は嫌な人」などと決めつけてしまうと、その人自身の本来の姿が見えにくくなります。また、「あの子は〇〇」という決めつけからいじめに発展する場合があります。そうならないためにも、普段から先入観にとらわれず、自分で考えて判断する習慣を付けることが大切です。そのような意図があるのか、子供たちが使う教科書の中には、「おにたのぼうし」以外でも「よい鬼」や「優しいきつね」などが登場します。そのたびに子供たちは自分の頭を働かせ、先入観にとらわれず、「いいものはいい」と判断する力を育てています。

2月は今年度3回目の「ふれあい月間」です。子供たちには友達に対して無闇に決めつけることなく、仲良くかかわってほしいと願っています。保護者、地域の皆様にもご理解とご協力をいただくと幸いです。

【今月のあいさつ標語】

本校では今年度、子供たちが元気でさわやかな挨拶ができるよう全校で取り組んでいます。夏休みの選択課題として「あいさつ標語」に取り組んだ児童の作品の中から、今月は5年生の作品を紹介します。

○ 元気なあいさつで 目指そう 世界のメダリスト

○ スポーツも 最初のあいさつで 勝敗あり

○ あいさつは だれにとっても 宝物

○ あいさつは みんなをかえる 魔法の言葉

